

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子
HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-tyky.ed.jp/>



< 12月号 >

令和3年12月1日

TEL 03-3977-2711

校長 繁田 幸江

第129号

GRIT（やり抜く力）を育てる

校長 繁田 幸江

東京オリンピック・パラリンピックが開催された2021年もあとわずかとなりました。1日何千人もの感染者数に震撼した新型コロナウイルスも、今は信じられないほど減少しています。四季の香小では、休み時間に全学年いつでも外で遊べるようになったり、全校朝会を校庭で集まって行えるようになったり、再開の喜びが一つ、また一つと増えています。これまで支えてくださった保護者の皆様や地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

題名のグリット（GRIT）とは「やり抜く力」「粘る力」のことで、困難に遭ってもくじけない闘志、気概や気骨などの意味を表す英語です。心理学者でペンシルバニア大学教授のアンジェラ・リー・ダックワース氏は、「才能やIQ（知能指数）や学歴ではなく、個人のやり抜く力こそが、予測不可能なこれからの世の中で、重要である」と言っています。まさに、この1、2年は、私たち大人も世の中の目まぐるしい変化に適応し、日々乗り越える力が必要でした。

グリットは、後天的に伸ばすことができますが、そのためには、いくつかの方法があります。その一つが、「今より少し難しい目標に挑戦すること」です。毎日できることを続けていると安心ですが、グリッドを育てることはできません。目の前の新たなことに対して「無理」という先入観を捨てて、「もしかしたらできるのではないか」「どうやったらできるだろうか」と物事を前向きに捉えて、「よし、やってみよう。」と挑戦することが大切です。もう一つの方法は、「成功体験を積み上げること」です。急に大きな目標に挑戦すると、乗り越える前に心が折れてしまうことがあります。毎日一つずつ小さな成功体験を積み重ね、「これもできた。」「次もがんばればできる。」と自己肯定感や自己効力感を高めることで、グリットは育ちます。

それでは、学校や家庭は、どのようにして子どもたちのグリットを育てていけばよいのでしょうか。「今より少し難しい目標に挑戦させること」は、子どもたち一人一人の経験や能力、興味や関心に応じた適切な目標をもたせることが必要でしょう。全く興味がないことやどんなに努力をしてもできそうにないことを無理やりやらせても自信が無くなるだけです。もちろん、失敗することを恐れて挑戦させないのは、論外です。いろいろな体験を通して、「あなたならきっとできるよ。」と背中を押して見守りましょう。時には乗り越える方法を一緒に考えることも必要です。全部うまくはいかなくても、「ここまでできたね。」「あのやり方はとてもよかった。」とプラスの面を認めることで、子どもたちのグリットは少しずつ育っていくと思います。

四季の香小では、12月9日から11日まで、展覧会を催します。今年を締めくくる行事ですが、地域の方や来賓の方もお招きする今年度初めての行事です。個性豊かな作品を見つめていると、様々なことを感じたり考えたりして表現している顔が浮かびます。子どもたちの作品の良い所を見つけ、「ここが素敵だね。」「あなたしかできない工夫だね。」と良さを伝えてください。多くの方にご覧いただき、子どもたちのグリットを大いに育てる展覧会となることを願っています。